

「使徒の働き」全体の観察

1. ステップ1「使徒の働き」の中心的関心

地理的(Geographical)

2. ステップ2 章題

- 1章 聖霊の約束
- 2章 ペンテコステ
- 3章 美しの門
- 4章 議会でのペテロ
- 5章 アナニアとサツピラ
- 6章 七人の奉仕者
- 7章 ステパノの説教
- 8章 サマリアでのピリポ
- 9章 サウロの回心
- 10章 コルネリオ
- 11章 ペテロの幻の説明
- 12章 ペテロの投獄と救出
- 13章 伝道旅行に出るパウロ
- 14章 小アジアでの伝道
- 15章 エルサレム会議
- 16章 マケドニアに渡るパウロ
- 17章 アテネでのパウロ
- 18章 コリントでのパウロ
- 19章 エペソでのパウロ
- 20章 エペソでの告別説教
- 21章 パウロの逮捕
- 22章 同胞の前での弁明
- 23章 カイザリアへ
- 24章 ペリクスの前で
- 25章 フェストの前で
- 26章 アグリッパ王の前で
- 27章 ローマへの船旅
- 28章 パウロのローマ到着

3. ステップ3 使徒の働きへの分解・分析

I. 聖霊降臨の準備 (1:1-26)			II. ペテロ・エルサレム教会の伝道 (2:1-12:25)					III. パウロ・アンテオケ教会の伝道 (13:1-28:31)				
A	B	C	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
序文	イエスの約束と昇天	ペンテコステへの準備	ペンテコステとペテロの初期伝道	ステパノの伝道	ピリポの宣教	サウロの回心	ペテロの異邦人伝道	パウロの第一次伝道旅行	エルサレム会議	パウロの第二次伝道旅行	パウロの第三次伝道旅行	パウロの逮捕ローマへ
	2 3	14 15 26	26	6:7 6:8	7:60 8:1	40 9:1 31 32	12:25	14:28	15:1- 34	15:35-18:22 23	21:16 17	
	1:1		2:1				12:25	13:1				28:31

4. ステップ4 「使徒の働き」の主要な構造関係

① 序論⇒展開(Preparation/ Realization)

◇ 1:1-2は著者から宛先のテオピロに対する序文となっている

- (1) 「使徒の働き」執筆者・・・私 (1:1)
- (2) 「使徒の働き」の宛先・・・テオピロ (1:1)
- (3) 「使徒の働き」は福音書の続編・・・前の書(1:1)

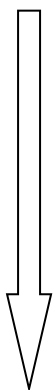
これらの設定は、「使徒の働き」全体の背景として機能している。

解釈するための質問

- (1) ・使徒の働きに登場する「私」とはどのような人物なのか。
 - ・「テオピロ」とは誰なのか。
 - ・「イエスが行い始め」とは何を意味するのか。
 - ・「イエスが教え始め」とは何を意味するのか。
 - ・「聖霊によって命じる」とは何を意味するか。
 - ・「天に上げられた日」とは何を意味するのか。
 - ・これらの設定は使徒の働き全体の準備としてどのように機能しているのか。
- (2) 著者なぜこのような序文によって使徒の働き全体の準備をしているのか。
- (3) [序論⇒展開]で暗示されていることは何か。

②各論化(Particularization)と結果→原因(Substantiation)

総論 1:8 しかし聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土および地の果てにまで、わたしの証人となります。



[結果]



[理由] or [手段]

各論 1:12-28:31 聖霊の降臨と力を受けた弟子たちの働き
エルサレムでの証人としての働き
ユダヤ、サマリア全土での証人としての働き
地の果てまでの証人としての働き

◇ 1:8 に使徒の働きの主題

- ①聖霊の力
- ②キリストの証人としての働き
- ③地理的広がり(エルサレム→ユダヤ、サマリア→地の果て)

が総論的にまとめられていて、1:12-28:31 の物語が具体的につづられている

◇ また 1:8 の約束(結果)が 1:12-28:31 の具体的物語によって(原因・理由)によって成就し、約束の実現を裏付けている。

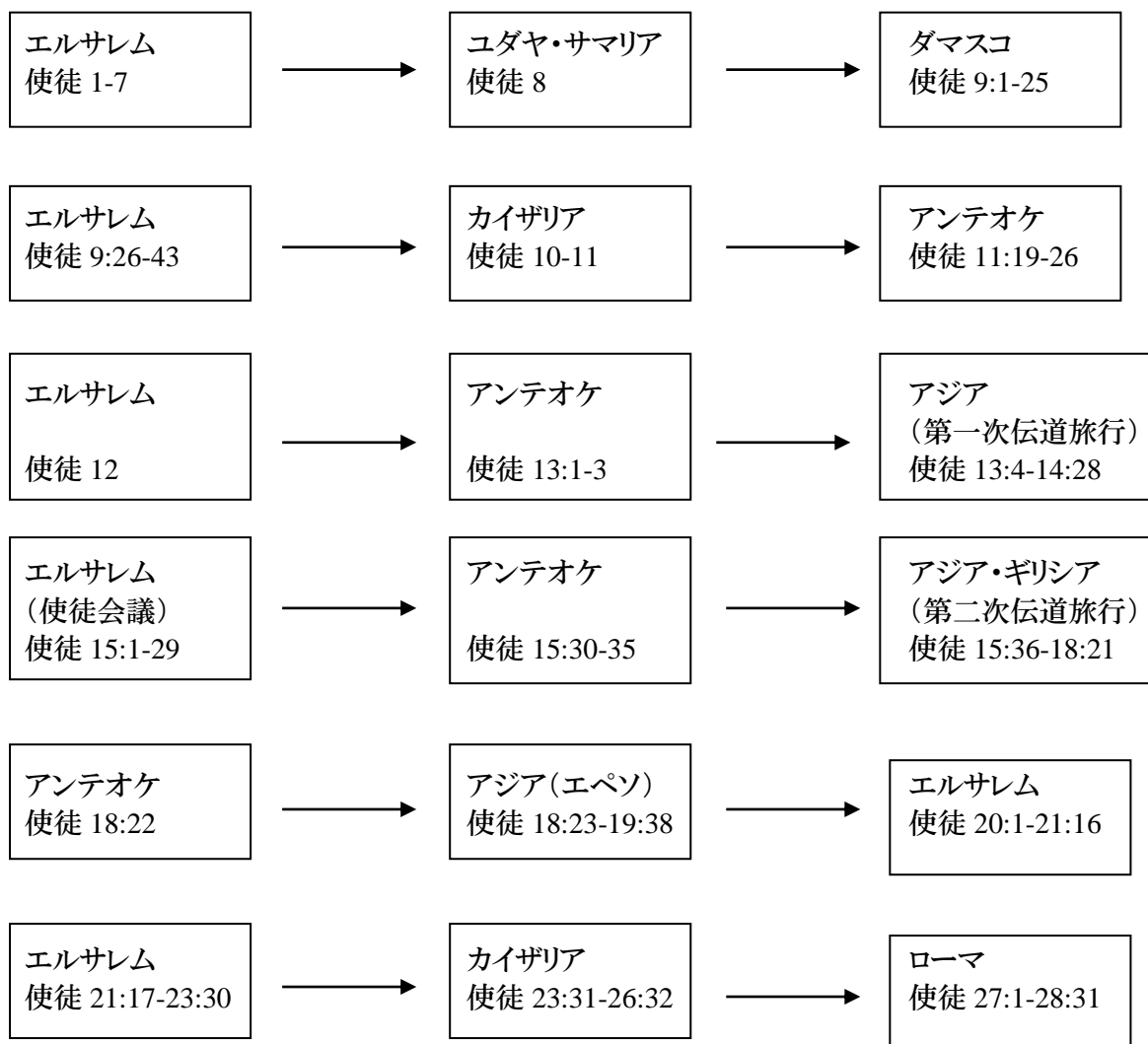
解釈のための質問(各論化)

- (1) ・「聖霊が臨む」とは何を意味しているのか。
 - ・「力」とは何を意味しているのか。
 - ・「わたしの証人」とは何を意味しているのか。
 - ・「エルサレム、ユダヤ、サマリアの全土」とは何を意味しているのか。
 - ・「地の果て」は何を意味しているのか。
 - ・総論で提示されている各主題は、各論でどのように展開されているのか。
- (2) なぜ著者は、このような各論化を用いているのか。
- (3) 各論化の中に示唆されていることは何か。

解釈のための質問(結果→理由)

- (1) ・使徒たちの具体的働きは「聖霊による力」とどのようにつながっているのか。
 - ・使徒たちの具体的働きは「キリストの証人」とどのようにつながっているのか。
 - ・「聖霊による力」、「キリストの証人」は、どのように具体的な使徒たちの働きを支持しているのだろうか。
 - ・主イエスの約束と、使徒たちによる働き、約束の実現に、どのような要素があるのだろうか。
 - ・また、その各要素の意味は何だろうか。
- (2) なぜ著者は、このような「結果→原因」を用いているのか。
- (3) 「結果→原因」構造の中に示唆されていることは何か。

◇ 使徒の働きにおける地理的広がり、五回、エルサレムが起点となっている。



③比較(Comparison)が繰り返されている(Recurrence)

◇ 使徒の働き全体を通して、「ペテロ」と「パウロ」の比較構造を観察することができる。(類似点が多く見られる。) *用例は少ないがステパノ(使徒 6-7 章)、ピリポ(使徒 8 章)にもペテロ、パウロ類似点が見られる。

(1)ユダヤ人に対する説教

ペテロ(使徒 2:14-36; 3:12-26) ペンテコステ、ソロモンの回廊で
パウロ(使徒 13:16-41) ピシデヤのアンテオケ
ステパノ(使徒 7:1-53)議会で

(2)異邦人に対する説教

ペテロ(使徒 10:34-43)コルネリオ
パウロ(使徒 14:15-17; 17:22-31)ルステラやアテネ
ピリポ(使徒 8:26-35)エチオピアの宦官

(3)権威者の前での説教・弁明

ペテロ(使徒 4:5-22)議会の前で
パウロ(使徒 24:10-21; 26:1-29)ペリクスの前で、アグリッパ王の前で

(4)足のなえた人の癒し

ペテロ(使徒 3:1-11)エルサレム・美しの門
パウロ(使徒 14:8-18)ルステラ

(5)その他の癒し

ペテロ(使徒 5:15-16; 9:32-35)
パウロ(使徒 19:11-12; 28:7-10)

(6)投獄と奇跡的救出

ペテロ(使徒 12:1-17)エルサレム
パウロ(使徒 16:16-34)ピリポ

(7)死者の復活

ペテロ(使徒 9:36-43)ドルカス
パウロ(使徒 20:7-12)ユテコ

(8)手を置くと聖霊が下る(使徒の権威)

ペテロ(使徒 8:14-17)サマリア
パウロ(使徒 19:1-7)エペソ

(9)幻、御使いによる励ましと導き

ペテロ(使徒 10:10-16; 11:5-10; 12:6-11)
パウロ(使徒 16:9-10; 18:9-10; 27:23-24)

(10)悪霊、サタンの働きをする者へのさばき

ペテロ(使徒 5:1-11; 8:9-24)アナニア・サツピラ、魔術師シモン
パウロ(使徒 13:8-12)魔術師エルマ

解釈のための質問「ユダヤ人に対する説教」について

- (1) ・ペテロの同胞に対する説教、パウロの同胞に対する説教を通して、著者はどのような類似点を強調しているのか。
 - ・ペテロの説教における旧約聖書からの結論は何を意味するのか。パウロの説教における旧約聖書からの結論は何を意味するのか。ステパノの説教における旧約聖書からの結論は何を意味するのか。
- (2) なぜ著者はペテロ、ステパノ、パウロの説教における類似を強調したのか。
- (3) ペテロ、ステパノ、パウロの説教における比較の中で示唆されていることは何か。

解釈のための質問「足のなえた人の癒し」

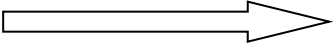
- (1) ・ペテロの足のなえた人の癒し、パウロの足のなえた人の癒しを通して、著者はどのような類似点を強調しているのか。
 - ・ペテロによる足のなえた人の癒しは何を意味するのか。パウロの足のなえた人の癒しは何を意味するのか。
- (2) なぜ著者はペテロとパウロの「足のなえた人の癒し」における類似を強調したのか。
- (3) ペテロとパウロの「足のなえた人の癒し」における比較の中で示唆されていることは何か。

解釈のための質問「比較の繰り返し」

- (1) 類似するペテロとパウロの働き of 繰り返しの中で何が強調されているのか。
- (2) なぜ著者は、このようなペテロとパウロの活動の類似を繰り返しているのか。
- (3) このペテロとパウロの類似の繰り返しの中で示唆されていることは何か。

④原因→結果の繰り返し

- ◇ 原因(理由)は「聖霊に満たされ力を受ける」ことであり、結果は、主イエスを証するさまざまな働きである。使徒の働きでは、聖霊の満たしとそれに伴う働きが、何度も繰り返されている。

理由		結果
聖霊に満たされたペテロと弟子たち (使徒 2:1-4)		他国のことばで話す(証する) (使徒 2:5-42)
聖霊に満たされたペテロ (使徒 4:8)		民の指導者、祭司の前で証する (使徒 4:9-22)
聖霊に満たされたエルサレム教会(使徒 4:31a)		神のことばを大胆に語る。財産の共有(使徒 4:31b-37)
聖霊に満たされた七人 (使徒 6:1-6)		配給問題の解決、神のことばが広がる(使徒 6:7)
聖霊に満たされたステパノ (使徒 6:8-9)		力強い証、同胞に対する説教 (使徒 6:10-7:53)
ステパノ(使徒 7:54-55)		主イエスを見る。殉教 (使徒 7:56-60)
回心したサウロ(使徒 9:17-19)		イエスがキリストであると宣言 (使徒 9:20-22)
コルネリオと同伴者たち (使徒 12:44)		異言と賛美(使徒 12:45-48)
バルナバ (使徒 11:24)		アンテオケ教会への励まし (使徒 11:23-26)
アガボ(使徒 11:28)		預言と支援(使徒 11:28-30)
パウロとバルナバ(使徒 13:1-2)		伝道旅行への派遣(使徒 13:3-4)
聖霊に満たされたパウロ (使徒 13:9)		魔術師エルマへのさばき (使徒 13:10-12)
エペソの信仰者(使徒 19:6)		異言と預言(使徒 19:6)
パウロ(使徒 19:21)		これからの計画(使徒 19:21-22)
ツロの弟子たち(使徒 21:4)		忠告(使徒 21:4)

解釈するための質問

- (1) ・聖霊の満たしが、どのようにこれらの結果(例えば、主イエスの証、説教、異言、預言)を生み出しているのか。
・この原因→結果にどのような要素が含まれているのか。それらの要素の意味とは何か。
- (2) 著者はなぜ、この聖霊の満たし→それに伴う働きを用いているのか。
- (3) この原因→結果の中に示唆されていることは何か。

⑤「ユダヤ人の権威者からの反対と迫害」の繰り返し

- ◇ 使徒の働きの中で、福音に反対し、キリストの弟子たちと教会を迫害するメインキャラクターはユダヤ人であり、エルサレムのユダヤ人指導者たち(含 ヘロデ王)、ヘレニストユダヤ人の指導者たちである。

ペテロとヨハネに (使徒 4:1-22)
使徒たちに (使徒 5:17-42)
ステパノに (使徒 6:8-15; 54-60)
エルサレム教会と信仰者 (使徒 8:1-3; 9:1-2)
回心後のサウロ(使徒 9:23-25)
ヘロデ王による (使徒 12:1-4)
パウロとバルナバに (使徒 13:44-52)
パウロとバルナバに(使徒 14:2, 5, 19)
パウロに(使徒 17:5-9, 13)
パウロとシラスに (使徒 18:6, 12-13)
パウロに (使徒 19:8-9)
パウロに(使徒 20:3)
パウロに(使徒 21:27-40; 22:22-23)
パウロに(使徒 23:12-15)

解釈するための質問

- (1) ・ユダヤ人権威者からの迫害の主要な意味は何か。個々のユダヤ人指導者からの迫害は、どのように関係しあっているのだろうか。
- (2) 著者はなぜ、ユダヤ人指導者たちからの反対と迫害を繰り返して用いているのか。
- (3) このユダヤ人指導者たちからの反対の中に示唆されていることは何か。

⑥「神のことばの拡大・教会の進展」(要約文)の繰り返し

- ◇ いくつかの物語が続いた後で、著者による要約文(神のことばの拡大と教会の進展)が繰り返されている。

ペンテコステの出来事

使徒 2:41

「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。」

七人の奉仕者の選任

使徒 6:7

「こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。」

サウロの回心と回心後の伝道

使徒 9:31

「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った。」

ペテロの救出とヘロデ王の死

使徒 12:24

「主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。」

ピシディアのアンテオケでの説教、異邦人に向かうパウロとバルナバ

使徒 13:49

「こうして、主のみことばは、この地方全体に広まった。」

第二次伝道旅行の開始、ルステラでテモテが加入

使徒 16:5

「こうして諸教会は、その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。」

第三次伝道旅行(エペソ伝道)

使徒 19:20

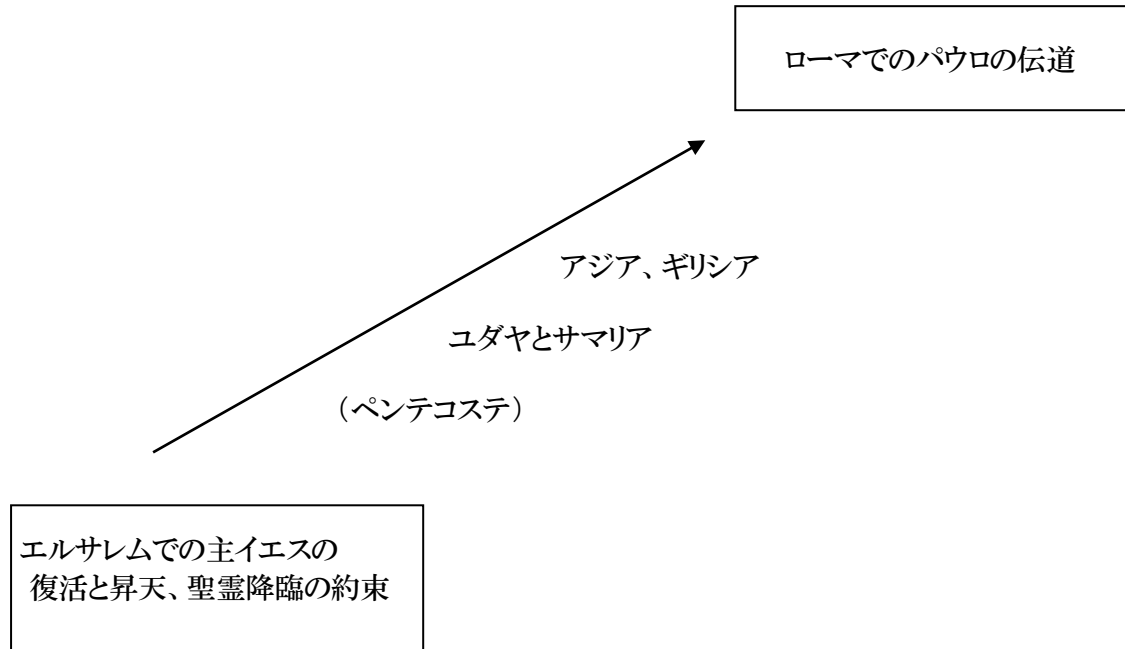
「こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。」

解釈するための質問

- (1) ・要約文の主要な意味は何か。個々の要約文はどのように互いに関係し合っているのだろうか。
- (2) 著者はなぜ、教会の進展の要約文を繰り返して用いているのか。
- (3) この要約文の繰り返しの中に示唆されていることは何か。

⑦クライマックス

- ☆ 使徒の働きは、エルサレムにおける主イエスの聖霊降臨の約束に始まり、徐々に地理的に広がっていき、ついにローマでパウロが福音を証しするところでクライマックスに達している。



解釈するための質問

- (1) エルサレムの主イエスの復活・昇天から始まる使徒たちの証しは、どのようにローマでの伝道によってクライマックスに達しているのか。ローマでの伝道は、クライマックスに至る各部にどのような光を与えているのか。
- (2) 著者はなぜ、このような地理的なクライマックスを用いたのか。
- (3) このようなクライマックスに何が暗示されているのか。

⑧インクルージオ(囲い込み)

使徒 1:3 「イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きてい
ることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。」

主イエスの働きを継承する使徒たちと聖霊による伝道の働き

ペテロ (エルサレム教会)

パウロ (アンティオキア教会)

使徒 28:31 「少しもはばかることなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、
主イエス・キリストのことを教えた。」

使徒の働きの最初に「主イエスによるご自身の証し」と「神の国の宣教」が示され、最期のクライマックス部にパウロによる「神の国の宣教」と「主イエスについての証し」が書かれている。(しかもキアズム・交差となっている)

このインクルージオは明らかに比較の構造を示している。つまり主イエスが昇天する前(復活後の)宣教を、地の果て(ローマ)でパウロが継承している。主イエスは聖霊の働きを通して、使徒たちを通して同じ働きを続けている。